授業科目　哲学

【担当教員名】	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・栄養・ｽﾎﾟ・看護・社会
渡辺信也	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：ＧＩＯ>】

哲学とは元来「自己とは何か、世界とは何か」を問うものである。本講義ではこの本来の問いを正面から取り上げ、自己のありかを模索する学生諸君の思索に糧を供給することを旨とする。「自分探し」という言葉が人口に膾炙［かいしゃ］して久しいが、その一方で現代の科学や哲学では「自己は実在しない。自分探しなんておやめなさい」と説かれることが多い。これは前世紀思想の一つの帰結なのだが、これでは若者の哲学的要求を蔑ろにしかねない。自己及び世界の根源を問うことは、現代社会の諸問題を哲学的に反省し、その超克の途を拓くことでもある。本講義では「自己と世界」という主題を巡って、近現代の思想を批判的に考察していく。

【<学習目標>又は<行動目標：ＳＢＯ>】

本講義では、減殺社会の諸問題―政治・経済システムの行き詰まり、環境問題、文化間の紛争、倫理意識の喪失等―の思想的根源を、前世紀に蔓延したポスト・モダン／相対主義的思潮の内にみて、こうした思想の代替となりうる新たな哲学思想の可能性を探ることを目的とする。そのために哲学的思索の原点に立ち帰り、「自己とは何か、世界とは何か」を主題的に考察するが、その際、必ずしも狭義の哲学に拘泥することなく、心理学、人間学、東洋思想等から幅広く取材し、検討を重ねるという営みを通して哲学研究の実際に触れると共に、学生が自ら体的に思索し、自分なりの人生観・世界観を確立することを最終目標とする。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	現代の思想状況と自己否定論…これらの関係・問題点を検討する。		講義
2	古代ギリシアの自己論（１）…ソクラテス・プラトンの霊肉二元論、輪廻説を論ずる。		講義
3	古代ギリシアの自己論（２）…アリストテレスの心身一元論とその問題点を探る。		講義
4	近世哲学の自己論…デカルトの物心二元論、ホッブズの唯物論など、近世哲学の合理主義を検討する。		講義
5	現代科学の自己論（１）…養老孟司の「唯脳論」、澤口俊之の「自我局在論」など、現代医学の自己論を検討する。		講義
6	現代科学の自己論（２）…デネットの「ヴァーチャル・リアリティ論」を検討する。		講義
7	現代科学の自己論（３）…前野隆司の「受動意識仮説」、ポール・ピアサルの「心臓エネルギー論」を論ずる。		講義
8	東洋思想の自己論（１）…中国の「気」の心身論を中心に解説する。		講義
9	近代哲学の自己論…カント、ニーチェの自我否定論を中心に論ずる。		講義
10	現代科学の哲学的世界観…ベイトソン、ヤンツらの「有機システム論」について論ずる。		講義
11	心理学の自己論（１）…ユングの深層心理学、マズローの人間性心理学、フランクルの実存心理学について解説する。		講義
12	心理学の自己論（２）…ウィルバーの自己成長論、統合心理学／哲学を論ずる。		講義
13	東洋思想の自己論（２）…仏教の唯識思想を解説する。		講義
14	自己とは何か、世界とは何か…西田幾多郎の思想を中心に東西思想の統合の可能性を探る。（以上の内容は一部変更する場合がある。）		講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書（必ず購入する書籍）	指定しない。講義時にプリントを配布する。			
参考書	随時講義中に指示する。			
その他の資料				

【評価方法】

筆記試験（論述式）を実施する予定。

【履修上の留意点】

毎回講義終了時に簡単なレポートを提出してもらい、成績評価に算入するので積極的に取り組むこと。また可能な限り参考文献を参照するように。

全科共通科目　教養